

報告課題⑥ 第2回テストに向けて（復習プリント）

●表面

一、学習書の現代語訳を参考にするように注意があるが、学習書には現代語で分かりやすくなるよう、補われた語句がある。本文の古文を読んだだけではわからない雰囲気を感じ取りたい。

三、出題文をよく読むこと。「教科書」本文から抜き出す問題である。学習書の設問の解説からは抜き出さないようにすること。（全く違う表現なので学習書から抜き出したことがはつきりわかってしまう。）学習書から抜き出した場合はやり直し（再提出）とする。

四、答え方に注意！

「現代仮名遣いで書きなさい」という問題である。「現代語訳しなさい」と混同している人がいるので注意すること。

- （例）いとやむいともなきなわなにはあらぬが（源氏物語・桐壺）を（1）現代仮名遣い、
（2）現代語訳でそれぞれ答えると…。

- （1）いとやんいともなきなわなにはあらぬが：現代の我々が日常使うかなにすること。
（2）あまり高貴ではない身分の方で：現代人が耳で聞いて通じる言葉にすること。

四、をそれぞれ「現代語訳」する問題が出ても対応できるようになっておくこと。

五、品詞とは教科書P二五六下段の緑色の表の太字（10種類）の語句のこと。学習書下段の説明にある「○○詞」という語句を抜き出してレポートに写せるようになるのが、ここでの課題である。大学入試を目指す人は、それ以上に詳しい学習が必要になってくる。

七、それぞれの作品の成立年代、作者、趣意、内容については押さえておくこと。

八、誤字に注意！ 観…考え方、物のとらえ方 感…感じ方
※ここでは「無常」という考かんえ方かたはどんな考かんえ方かたかを説明すること。

●裏面

一、作品中の読み方で記すこと。「という注意書きがあるので、普段の会話のような、児（二）指（ゆび）、頭（あたま）、殿上童（でんじょうどう）、装束（しょうぞく）ではな（二）い（二）ことに注意。

二、高校一年生段階で、「動詞」「形容詞」「形容動詞」は完璧に知っておいてほしい品詞である。

・「動詞」…あり、をり、はべり、いまそがり の四つ以外は全て「**u**」の音で終わる。

(例) 屈く、走る、読む…など。

・「形容詞」…現代語「い」で終わる。(例) 楽しい、嬉しい、正しい

…古語「し」で終わる。(例) 楽し、嬉し、正し

・「形容動詞」…現代語「だ」で終わる。(例) 親切だ、静かだ

…古語「なり」(または「たり」)で終わる。(例) 親切なり、堂々たり

三、答え方に注意！

〈例〉〜〜「様子」。とあるので①〜⑤の文末も「〜〜様子。」に揃えること。

五、①、②それぞれ終止形で答えることに注意！

語尾が形容詞の場合は「し」、形容動詞の場合は「なり」(または「たり」となる語もある)となる。

六、清少納言と紫式部の対比については表にして覚える方法がある。二人が同時代の人であった(平安時代中期に一条天皇の中宮に仕えた)と知っておくだけでも、別々に覚えるより楽である。

ちよつと休憩

※「今でしょ！」のセリフで有名になり、各メディアで活躍中の予備校講師「林修」さん。この人の「おさむ」という名前は、古語の「おさむ」から来ているものと考えられる。

○現代語動詞「おさめる」から古語動詞「おさむ」を導くと左ようになる。

(1) おさめる ↓ 語尾の「る」を取る。 ↓ 「おさめ」となる。

(2) おさめ ↓ 残った語尾の「め」を、同じ「マ行」の「u段」の音である「む」にする。 ↓ 「おさむ」の完成。

ちよつと練習 自分で古語に導くのをいよいよ挑戦！(おさめとつなぐ)

※「おさめる」から「おさむ」に導かれたように、左の六つの動詞を古語にしてみよう。

- | | |
|---------|---------|
| ① 眺める ↓ | ② 留める ↓ |
| ③ 落ちる ↓ | ④ 生きる ↓ |
| ⑤ 受ける ↓ | ⑥ 入れる ↓ |



で、い